



かたくり



令和5年度
第6号

2023. 4. 24

学校教育目標

夢ふくらませ 心かがやく

「かたくりの花見学」

18日(火)に、1年生と2年生が生活科のフィールドワークとしてかたくり群生の郷を訪れ、見頃を迎えた「かたくりの花」を見学してきました。『くりっこ』の名称の由来の一つである「地域の宝物」を間近に見ることができ、子どもたちは大満足でした。

1, 2年生は、今年度も「かたくりの花」だけでなく「栗の花」や「西明寺栗」など『くりっこ』の名称の由来になっているものに四季を通して触れていく予定です。今回も赤倉さんから、わかりやすく説明していただきました。赤倉さん、本当にありがとうございました。そして、今後もよろしくお願いいたします。
(※写真は2年生の様子)



☆かたくりの由来 → ①古名「傾籠」(かたかご)、籠を傾けたように咲くからという説。②根が栗の片割れに似ていることから片栗と呼ばれた説。この二つの説が有力らしい。 ※「かたくり館」HPより
☆かたくり群生に関わる伝説 → 昨年度に続き、かたくり館HPより、裏面に掲載させていただきました。3年生のくりっこ探検隊で学習する辰子姫伝説にも関わるものです。ご家庭でも、子どもさんと話題にしてみてください。

「くりっこサイエンスクラブ」

20日(木)から、今年度のくりっこサイエンスクラブの活動がスタートしました。今年度は、4年生3名、5年生1名、6年生4名、計8名のメンバーです。

平成26年度から活動が始まっていますが、平成30年度までは理科学研究を中心に取り組み、全国学芸サイエンスコンクール金賞など様々な発表会等で素晴らしい成績を収めています。令和元年度からは、プログラミングを中心に取り組み、昨年度はWRO Japanというプログラミングの全国大会に出場しています。

今年度も前半はWROの大会に向けたプログラミング、後半はドローンを使ったプログラミングに取り組んでいきます。基本的には、週1回(木曜の放課後)1時間程度の活動となっています。

がんばれ、くりっこサイエンスクラブのみなさん!!



辰子姫の涙とかたくりの花

秋田県には十和田湖・八郎瀉・田沢湖の風光明媚な湖がある
これらの湖を舞台に壮大なスケールで展開されるのが三湖伝説である

十和田湖の覇権を懸けた南祖坊と八郎太郎との死闘
打ち負かされ十和田湖を追われて八郎瀉を作った八郎太郎
辰子姫をめぐる二人の再度の戦いに勝利した八郎太郎は
辰子姫の住む田沢湖に冬の間だけ移り住むことになる
龍神伝説としての三湖伝説は自然現象や災害なども集約され
その土地に伝わる諸説も組込んで展開される一大絵巻であるが
外伝としての辰子姫の涙とかたくりの花伝説を知る人は多くはいない

秋田県内陸中央部の北浦郷（現在の仙北市西木町）に八津野岱がある
八津野岱は谷あいの急峻な流れが緩やかになって平野に注ぎ出る場所に位置し
南方には広大な仙北平野の田園風景を眺望する自然豊かな台地である
八津野岱地域の特産は大きさ日本一といわれる西明寺栗なのだが
20ヘクタールを超す広大な栗園に咲き乱れるかたくりの大群生も日本一
紫の絨緞を織りなすように咲くそれは雪国の早春の一大風物詩でもある

八郎太郎は霜月九日に雄物川・玉川・桧木内川を遡り
八津野岱から瀉尻川通って辰子姫の住む田沢湖へと向かうことになる
八郎太郎と辰子姫の半年間の燃えるような情熱は
湖面を凍らせることなく水深も増し日本一の深さを誇るまでになった
しかしながら楽しく暮らす冬の季節はまたたく間に過ぎて
水温む四月中旬になると八郎太郎は八郎瀉へと帰ることになり
別れを惜しみながら後ろ姿を見送る辰子姫の姿が八津野岱にあった
悲しみに暮れる辰子姫は八津野岱から南を見つめながら
八郎太郎への思いを一層募らせ三日三晩泣き明かしたという
流した涙が八津野岱を覆い尽くして
そのあとは一面のかたくりの花の絨緞になっていた
辰子姫の悲しみを癒やしてあげようとした八津野岱の住民は
かたくりの花を愛しみ丹精込めて守ってきた

八津野岱は日本一のかたくりの群生地として広く公開され
辰子姫・かたくりの花ファンはもとより
初恋成就の聖地として 恋人たちのパワースポットとしての人気を博し
かたくりの開花する四月中旬から五月上旬には全国から多くの人を訪れる

《三湖伝説外伝》

※「かたくり館」HPより <https://katakurikan.jimdo.com/>